

藤澤医師

腎臓内科では、患者さんご本人が病気を正しく理解し、納得して治療法を選べるよう丁寧な説明を心がけています。医療者側の判断だけでなく、患者さんと一緒に考え話し合いながら、病気の進行を抑えられるような治療を行っていきたくて考えています。

石田医師

移植に至るまでの経緯は患者さんごとに異なり、その背景にはそれぞれのストーリーがあります。腎機能が低下した原因や併存疾患も多様で、同じケースは一つとしてありません。生体腎移植では、民法上の親族にあたる六親等以内の血族または三親等以内の姻族の中から、提供の意思がある方に患者さんご本人からドナーのお願いをしていただくことになります。

その際には、ドナーとなる方に精神的負荷がかかっていないか、ご家族との関係や思いに十分配慮しながら進めることを大切にしています。

また、医師のみの診察で患者さんおよびドナーさんを取り巻く社会的背景を含めた全体像を掴むことは難しいので、看護師さんにも診察の度に十分な時間をとって話を聞いてもらうようにしています。普段診察には同席されない御家族にも来ていただいております必要があると判断する場合には、特別に面会の場を設けてじっくりとお話を伺い、関係者全員が納得したうえで治療を進められるよう努めていきます。

地域の先生方と連携し、患者さんの選択肢を広げたい

藤澤医師

腎移植を検討する前の段階でも、できるだけ早いタイミングで当院にご紹介いただけるとありがたいと思います。腎機能がひどく低下してからでは、どうしても選択肢が限られてしまいます。患者さんと一緒に治療方針を考えられる時期に来院いただければ、ご本人の希望に沿った治療をご提案しやすくなります。気になることがありましたら、お気軽にお声かけください。

たとえ最終的に透析を選ばれるとしても、その前に情報を得て不安を解消しておきたいという方には、適切な情報提供が必要だと感じています。実際に手術を予定している患者さんに限らず、ご相談だけの方にも対応していますので、まずは気軽にお声かけいただければと思います。

移植をご経験された先生方は決して多くないかと思います。そのため、適応かどうかの判断に迷われることもあるかもしれませんが、「移植に関心がある」「話だけでも聞いてみたい」といった患者さんをご紹介いただければ、私たちが丁寧に対応いたします。どんな小さなことでも結構ですので、遠慮なくご相談いただけますと幸いです。

石田医師

腎機能が低下し、透析を検討し始めるタイミングで、「移植について話を聞いてみたい」という患者さんも少なくありません。

患者さんのご紹介・医療連携のご相談

☎ 045-628-6365 (直通)

 045-628-6367 (直通FAX)



https://www.yokohama.jrc.or.jp/portal/coop_op_reserv/



泌尿器科 副部長

石田 寛明

HIROAKI ISHIDA

SPECIAL DIALOGUE

みなと赤十字病院では、2024年10月に第1例目となる生体腎移植を実施いたしました。大学病院をはじめ他の施設との連携のもと、患者さんご家族に寄り添い、安心して治療を受けていただける腎移植医療を提供していく体制を整えています。

第1例目の腎移植を実施、順調な経過を確認

石田医師

2024年10月、当院で第1例目となる生体腎移植を実施しました。患者さんは遺伝性の腎疾患をお持ちの60代の方で、実の妹さんから腎臓の提供を受けられました。術後の経過は非常に良好で、3週間で予定どおり退院されました。

移植された腎臓に対する拒絶反応や免疫抑制剤によって生じえる感染症が起きることもなく、腎機能も良好です。現在は腎移植から10か月ほど経過しておられますが、移植前よりお元気になり、趣味のバドミントンを再開されたと喜ばれていらっしゃいます。

一人ひとりに合った腎代替療法の選択を支援

石田医師

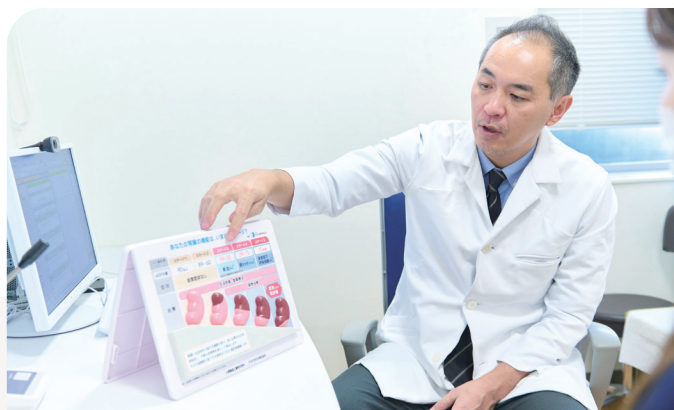
末期腎不全に対する腎代替療法には透析(血液および腹膜)と腎移植がありますが、腎移植を受けられた患者さんの方が生命予後が延びる傾向にあることが明らかになっています。また血液透析を受けられている場合と比較しますと、食事・水分制限の緩和、血液透析による時間的拘束からの解放、体調の大幅な改善など多くのメリットがあり、QOLを大きく向上させることが期待できます。免疫抑制剤の内服を一生継続する必要があるため、感染症の予防をしっかりと行っていたき、悪性腫瘍の早期発見のためにがん検診を定期的に受けていただく必要がありますが、それらを補ってあまりあるメリットがあると考えています。

一つの例ですが、血液透析を受けておられる患者さんが旅行をされる場合には旅行先で1日おきに透析を受ける計画を立てる必要があります、旅行先での貴重な時間を拘束される負担があります。特に海外旅行をされる場合には旅行先の透析施設の予約のみならず、費用面の負担も大きくなります。腎移植をされた患者さまではこういった負担がなくなるので、より自由に旅行を楽しんでいただくことが可能になります。

また、透析中の患者さんの妊娠・出産は現実的には非常に困難であることが知られております。腎移植を受け、移植後の腎機能が安定していれば妊娠・出産も可能となります。ただし、胎児への影響を考慮して妊娠前から免疫抑制剤の変更が必要になり、拒絶反応の発症リスクが高まるという側面もありますので、よく理解いただいた上でのトライとなります。

藤澤医師

腎臓内科では、「腎代替療法選択外来」という特殊外来を設け、患者さんご自身が納得して治療法を選べるようサポートしています。DVDなどの資料に加え、希望があれば実際に治療を受けている患者さんの声を聞く機会も設けています。末期腎不全の治療には、血液透析、腹膜透析、生体腎移植、献腎移植、そして保存的腎臓療法といった選択肢があります。



生体腎移植

保存的腎臓療法は、透析や移植をせず、薬で症状を和らげ、なるべく生活の質をおとさないよう注意しながら看取りに向けて調整する方法です。

腎機能が低下してくると、体内に毒素が蓄積されることで尿毒症の症状が現れます。食欲不振や倦怠感が生じ、さらに進行すると意識が低下し、寝たきりの状態に至ることもあります。体内の水分バランスが崩れることでむくみが出現し、最終的には肺水腫を引き起こすこともあります。

透析は、腎不全患者さんの命を支える大切な治療法であり、透析がなかった時代を思えば、非常に意義ある医療です。しかし、日常生活に多くの制限が伴うため、腎移植を希望される方もいらっしゃいます。

生体腎移植には、自発的な意思で腎臓を提供してくれる身近なドナーが必要となります。

地域で移植医療を提供する意味と、その先にある可能性

藤澤医師

私は東京科学大学(旧・東京医科歯科大学)の腎臓内科に入局し、大学病院で腎移植に携わってきました。透析を受けていた患者さんが移植によって尿が出るようになり、元気に退院される姿を目の当たりにし、腎移植がもたらす大きな回復力を実感してきました。

その経験から、当院でも地域で腎移植が提供できる体制を整えたいと考え、石田先生と連携のある横浜市立大学に相談を始めました。ちょうどその頃、すでに移植を行っていた横浜市立大学附属市民総合医療センター(市大センター)からも、「近隣で移植を担う病院があれば」というお話があり、当院がその役割を担う方向で動き出しました。

今後は、神奈川県内にある東京科学大学の関連病院とも連携しながら、地域で移植を希望される患者さんを積極的に受け入れていける体制をさらに強化していきたいと考えています。

石田医師

当院で腎移植を提供できるようになることで、当院腎臓内科に通院している患者さんが生体腎移植を希望された場合に、病院を移ることなくスムーズに腎移植へと進むことが可能になりました。近隣にお住いの患者さんにとって、移植前後を通じて地元の一つの病院で完結できるという点は大きなメリットであると考えます。



腎臓内科 部長

藤澤 一

HAJIME FUJISAWA

これに対し、献腎移植は提供数に限りがあり、順番を待つ期間が長くなりがちです。

治療法についてしっかり理解を深めることで、自分にとってより良い選択ができるようになり、移植を選ばれる方が増えるきっかけにもなると感じています。

また、腎移植を受けた患者さんは、免疫抑制剤を服用しているため感染症にかかりやすくなり、急な発熱など体調不良を起こされることは珍しくありません。そういった場合にも時間外救急体制が充実している当院ではしっかり対応できますので、患者さんに安心して通院いただけると考えております。これまで市大センターが横浜市内唯一の腎移植施設として腎移植を実施してきましたが、実施可能な移植手術件数にはどうしても限りがありますので、混んでいる時には初診から手術まで1年近く待つ必要があることもありました。

最近では透析を経ずに腎移植を行う先行的生体腎移植を希望される方が多くなっておりますが、手術までの待ち時間が長くなってしまうと、患者さんの腎機能によっては透析導入いただいてお待ちいただかなければならない場合もあります。当院で腎移植を開始することで、そういった時間的猶予のない患者さんにもタイムリーに腎移植を提供できる可能性が増えると考えています。患者さんの状況に合わせて適切な治療を提供するために、市大センターとの密な連携を維持していく方針です。